

九州・沖縄地域共生社会推進フォーラムの開催

～国東市民の取り組みを九州・沖縄に発信しました～

令和4年1月28日（金）に厚生労働省九州厚生局主催の九州・沖縄地域共生社会推進フォーラムがライブ配信（ZOOM）で開催されました。

フォーラムは地域共生社会の先駆的な取り組みをくにさき地域応援協議会“寄ろう会（え）”（大分県国東市）、NPO法人おーさぁ（熊本県熊本市）、（株）サンコーライフサポート（熊本県合志市）、熊本県大津市の4団体が九州・沖縄地域の県・市町村職員や社会福祉協議会職員に発表しました。

“寄ろう会（え）”は、地域の皆さんが、「いつでもどこでも情報を得られる」共通Webサイトの作成や「いつでもどこでも情報を発信できる」スマートフォン教室などの取り組みを発表しました。

その他にも多くの取り組みがあります。ぜひWebサイト“国東つながる暮らし”をご覧ください。



国東つながる暮らしの説明はYouTubeで視聴できます。



市役所会議室からノートパソコンのカメラとマイクで配信しました。



ライブ配信はこのような感じで画面に映し出されます。



Instagramやスマートフォンの使い方が分からない方にスマートフォン教室を実施。誰でもスマホがあれば投稿できるようになります☆



みなさんが投稿した写真や記事はこちらから見ることができます。



九州厚生局地域共生社会推進賞 団体部門受賞



くにさき地域応援協議会“寄ろう会（え）”のインターネットによる情報発信『国東市地域づくり支えあい活動共通Webサイト“国東つながる暮らし”』が地域共生社会推進賞を受賞し三河市長に報告しました。

あわせて、公益財団法人さわやか福祉財団が主催する「いきがい・助け合いサミットin神奈川のポスターセッション」に入賞し表彰されたことも報告しました。

国東つながる暮らし

kunisaki life

海・山・川・歴史、そして繋がる人々の暮らし

しーちゃんも
している
情報発信



【活動報告】(大分県) 国東市 地域づくり支え合い活動 共通WEBサイト “国東つながる暮らし”
くにさき地域応援協議会“寄ろう会(え)”

大分県 国東市

■位置



【基本情報 令和2年9月現在】

●人口: 27,240人

65歳以上人口 11,551人(42.4%)

85歳以上人口 2,840人(10.4%)

●面積: 318.10km²

※端から端まで車で 1時間程度

●地域づくり活動 基準エリア(市内16エリア)

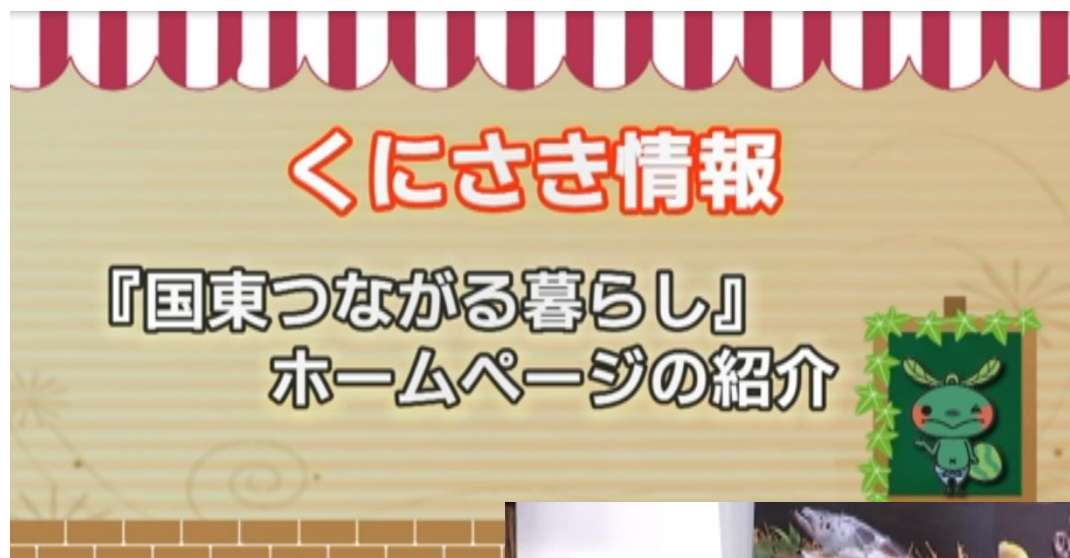
※国東市総合計画に基づき、基準エリアは地区公民館(旧小学校圏域)



【基準16エリア】



映像紹介 7分



“くにさき地域応援協議会” 寄ろう会

準備期間：平成28年3月7日～平成29年11月24日
本格運用：平成30年3月1日～

国東市は27,240人、65歳以上11,551人(42.4%)“超高齢社会”。85歳以上も2,840人(10.4%)で約10人に1人が85歳以上。支援が必要な方は増える一方で、公的な支援は減少していく事が予測され、国東市では専門機関の支援だけではなく住民同士の支え合い活動(自分たちができる介護予防や生活支援)が平成29年度より本格的にスタート。市内の各地域で全戸アンケート調査をするなどして、地域の方々の要望を洗い出すことから支え合い活動は始まりました。その結果、各地区で今できるところから支援の形(居場所づくりやちょい加勢支援)を実現化させていっております。高齢化、人口減少がとどまらない中、各地区で問題や課題も多くありますが、支援の形を広げていくべく、それぞれが模索、努力しております。また、その活動自体が地域の方々のやりがいや生きがいともなっています。当初高齢者支援を主目的とした活動として始まりましたが、その土台ともなる地域活性に関しても関わり、活動を広げていっています。地域の子供から高齢者まで、皆が笑顔で国東市での暮らしを楽しめるよう、また楽しみながらこれからも活動して参ります。

くにさき地域応援協議会“寄ろう会”は上記地域づくりを实践されている地域や団体、行政機関など一堂に会し、国東市全域で地域づくりを応援する会になります。

“寄ろう会(え)”は、暮らしの“支え合い”を国東一丸となって応援する会です。“寄ろうえ”は、国東の方言で“集まろう”という意味になります。会の名称を決める際、「みなで集まって暮らしの“支え合い”を話し合おう！」と親しみを込めて『寄ろう会(え)』と名付けました。みなが集まりそしてつながることから国東の支え合いがはじまります。

コロナ禍前



コロナ禍後



規模を縮小して開催中(年4回程度)



“国東市 地域支援サポーター”

試験期間：令和2年9月1日～令和3年3月31日
本格運用：令和3年4月1日～

少子高齢が急速に進む国東市において、今後ますます隣近所をはじめ地域での支え合い活動が大切となってきます。現在社協職員6名生活支援コーディネーターとして、地域における支え合い活動など生活支援体制の構築に向け活動しております。地域のみなさんのご尽力で市内各地域へ取り組みが拡大する一方で、生活支援コーディネーターだけの一定方向の視野(福祉分野のみ)では、多様性のある地域へ十分な後方支援が難しい状況でもあります。

そこで令和3年9月から試験的に、これまで地域おこし協力隊員の方や積極的に地域づくりに支援いただいた方を中心に『地域支援サポーター(準サポーター含)』として社協より委嘱・登録させていただきました。委嘱・登録いただいたサポーターはみなさん移住された方々で、様々な職歴や客観的な外からの広い視点を持ちつつ、国東に魅了され定住を決め、この地域に貢献したいという強い思いをお持ちです。

サポーター(委嘱3名)



【氏名】越名さん

【職業・経歴】

デザイン事務所経営
(元地域おこし協力隊)

【メッセージ】

現在、コロナウィルス感染拡大の状況下で地域の支え合いの取組み(カフェ、食事会)が休止しています。このような状況だからこそできる取組み(ミニお助け隊等)をもう少し工夫して地域の活性化につなげていきたいと思っています。



【氏名】武井さん

【職業・経歴】

体験型民宿経営
(商社勤務など)

【メッセージ】

国東市の課題は人口増の推進です。そのためにも暮らしを楽しめる地域にすることが発信力を持ちます。国東は豊かな自然と人のつながりが残っている希少な地域であり最大の資源です。その資源を生かす地域づくりを皆さんと共に考えていきます。

準サポーター(登録3名)



今田さん



原さん



3 浅野さん



【氏名】熊田さん
と娘さん

【職業・経歴】

専業主婦をしながら
怪談師やイベント企画等
参加(元広告代理店勤務)

【メッセージ】

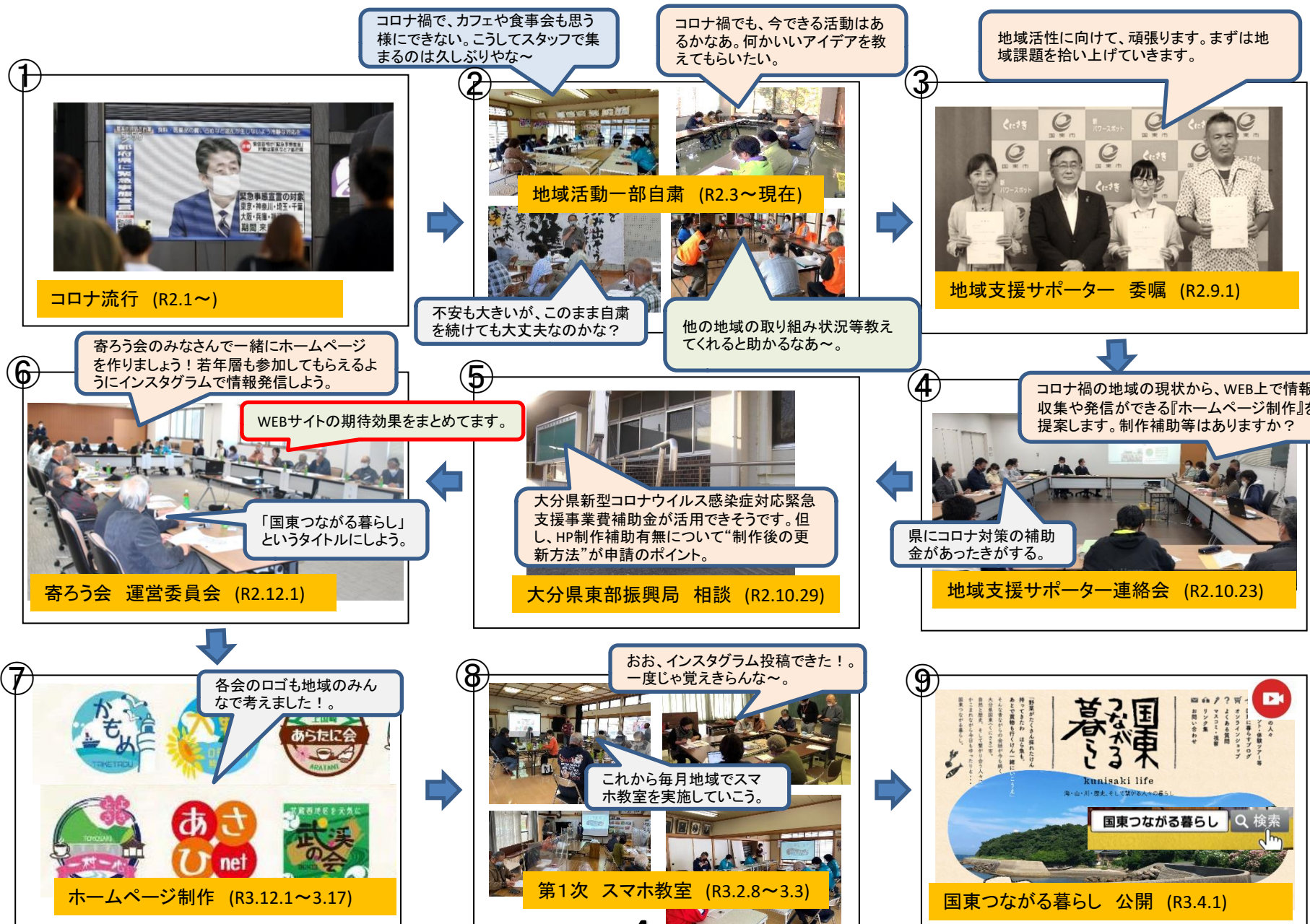
国東の魅力(伝統や文化・モノ・人)を日本中そして世界中に発信していきたいです。3歳の娘の子育てをしながら活動させていただきたいと思います。賑やかになってしまうこともあるかもしれませんが...娘共々どうぞ宜しくお願い致します。お気軽にお声掛けいただけましたら嬉しいです。

●地域支援サポーター連絡会(月1回開催)



月1回の「生活支援サポーター連絡会」で、行政各関係課の職員(課長含)も同席いただき、地域活性化に向けた提案を行います。WEBサイト制作(案)についてもこの連絡会からスタートしました。サポーターの皆さん提案は毎回とても斬新で具体性のある内容となっています。

公開までの流れ(制作まで)



制作後の展望と課題

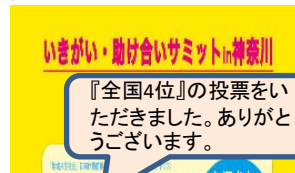
①制作後の予算(行政支援)



●国東市役所 活力創生課
福田主幹

国東市役所では、令和3年度に新たに『国東市デジタル化推進支援補助事業』を創設、スマホ教室やタブレット整備、オンラインショップ開設等に役立ててほしい。

②WEBサイトの周知啓発の促進



越名さん

●全国へ周知啓発
ポスターセッション



●国東市内へ周知啓発
100部 掲示

③スマホ教室開催(継続性 と 若年層参加)



●スマホ教室(新規地区開催の様子)



●スマホ塾 開催
お互いで教え合う様子



●スマホ教室(若年層講師参加)

④各地域協議会の介入や協働



●国東市役所 活力創生課
福田主幹

『国東つながる暮らし』でこれまで停滞していた地域や介入が難しかった地域にも入るきっかけとなった。

実際に新たな団体も活動するようになり、今後も一緒に活動できればと思う。

制作後の展望と課題

⑤環境整備(各拠点のWi-Fiスポット化、タブレットの整備)



●行政へ相談中(拠点Wi-Fi)
※ 設置済 (5/16 箇所)



●モバイルWi-Fi導入(代替策)



●タブレット整備(9/16)
※オフライン

⑥体験イベントラリー開催(若年層の参加)



●古代米作り(出張カフェ)



空き家調査

令和3年4月～
熊毛地区の子供たちが空き家調査にまゐります。

この度、熊毛地区の子供たち(現国見中学校1年生、4月より2年生の地域を回る)ことになりました。

国東市はご存じの通り人口が減り続け、移住定住に向けて市も取り組んでいます。

その一環として「空き家バンク」制度を創設しておりますが、近年物価を把握しきれないといった問題も抱えております。

そのため、市よりききあえあいの活動、例えば、大輪も少ない役員、スタッフの状況です。

そこで、これを機に大輪より熊毛地区の子供たちが空き家調査にまゐります。

●空き家調査(中学生)



●コミュニティバスの活用



⑦オンラインショップ開設(準備中)



●国東市地域おこし協力隊
浅野さん

オンラインショップ開設に向け、地域おこし協力隊として、受注管理や商品発送等できることを協力していきたい。また、それぞれの地域の商品についても国東らしさを地域のみなさんと一緒に考えたいと思う。

⑧市役所内の連携



●国東市役所 高齢者支援課
溝部係長

コロナ禍で住民主体の居場所づくりも自粛している。

『国東つながる暮らし』を活用して地域の連携や高齢者向けスマホ教室に発展した。

なお、市役所内の地域づくり関係課とも具体的に協議・連携し、地域共生社会を目指していきたい。